

2～6月のイベント

2月から6月にかけて、感染対策をしながら様々なイベントに参加されました。鳥取県知的障害者福祉協会創立60周年記念式典参加し、コンサートやバルーン飛ばし等楽しめました。また、ゴールデンウィーク中にアイスクリーム屋さんを開いたり、丁目毎でたこ焼き作り、バーベキュー、アイスフルーツパフェ作り等をしました。

写真は、ほんの一部ですが、みなさん色んなことにチャレンジされ楽しまれておられました。



鳥取県知的障害者福祉協会創立60周年記念式典

大運動会（於鹿野町トレーニングセンター）



たこ焼き作り

バーベキュー

フルーツパフェ作り

移動販売車

昨年度より移動販売（とくし丸）の利用を取り入れています。ご利用者が自分で商品を選び、楽しそうに買い物をされています。



道路ボランティア清掃

4/22に道路ボランティア清掃しました。皆さんが沢山のゴミを拾い道路が綺麗になりました。地域社会に貢献できる貴重な体験ができました。



お問い合わせ

〒689-0426

鳥取市鹿野町寺内 102 番地

障害者支援施設 鹿野第二かちみ園

TEL:0857-84-3267 FAX:0857-84-3293

E-mail dai2_info@tottori-kousei.jp（代表）

HP <http://www.tottori-kousei.jp/dai2k.html>

鹿野第二かちみ園だより

～48号～

鹿野第二かちみ園基本理念

1. 利用者の権利を擁護します
2. 利用者主体のサービスを提供します
3. 地域に貢献する施設を目指します



「より開かれた施設生活」とは ～意思決定支援の観点から考える～

園長 藤崎慎一

世の中「入所施設に入っていれば安心」という発想が長らく続いて今日に至っています。確かに施設では、健康管理、安全管理、生活習慣管理など、安全・健康な生活が出来るよう支援に尽力しています。一方でご本人にとっては、施設生活ってどうなのでしょう。多くの日において24時間施設の中で生活が完結するとすれば「制限された生活」を強いられることになります。例えば食事も一律のメニュー、入浴も決まった日・時間。外出も決まった日…。極端に言えば「閉鎖された選択肢のない世界」が毎日のように繰り返されているとすれば…。これら集団生活が故のデメリットは極力解消する必要があるとつくづく感じます。当園が近年意識して取り組んでいることは、「だれでも社会の一員である」という意識を再認識し、感染症対策を講じながら、極力外に出かける機会を増やすことです。つまり、地域社会を体感してもらうこと（世間を知る）、自分で好きな物を選ぶこと（買物、食事などの自己選択・自己決定）、自分で商品や伝票をレジに持って行き会計を行うこと（社会生活力の向上）などです。地域行事への参加はもちろんです。なかなか移動が難しい方については、町内で、あるいは園内ならネットショッピングや移動販売車などの活用も積極的に取り入れています。少しでも在宅サービスであるグループホーム生活に近づければと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

2025年6月発行

新任者 よろしくお申しします

- ① 好きな食べ物
お好み焼き
- ② 嫌いな食べ物
豆腐
- ③ 趣味・関心
サッカー観戦
- ④ 好きな言葉
「温故知新」



支援主幹 井口 賢一郎
鹿野かちみ園より

- ① 好きな食べ物
お好み焼き
- ② 嫌いな食べ物
トマト、しそ
- ③ 趣味・関心
YouTube 観賞
ショッピング
- ④ 好きな言葉
「待てば海路の
日和あり」



支援員 鈴木 俊宏
湯梨浜はごろも苑より

- ① 好きな食べ物
からあげ
- ② 嫌いな食べ物
きゅうり
- ③ 趣味・関心
食べること
- ④ 好きな言葉
「ありがとう」



支援員 生駒 宙文
友愛寮より

- ① 好きな食べ物
ラーメン
- ② 嫌いな食べ物
トマト、きゅうり
- ③ 趣味・関心
釣り
- ④ 好きな言葉
「時合」



支援員 三上 輝
羽合ひかり園より

- ① 好きな食べ物
チーズ
- ② 嫌いな食べ物
ひじき、人参
- ③ 趣味・関心
犬
- ④ 好きな言葉
「七転八起」



支援員 大下 広江
いこいの杜より

よろしくお申しします



離任者 お世話になりました



支援主幹
西尾 健一朗
羽合ひかり園へ



支援員
宮川 友利
羽合ひかり園へ



支援員
間屋口 大輔
ふしの白寿苑へ
(介護員)



支援員
津和野 裕子
生活支援センター
倉吉へ(相談員)



支援員
古田 弥生
鹿野かちみ園へ



支援員
山名 明美
退職

支援取組事例報告会

当園では10年前から発達障がい者支援の専門職をスーパーバイザーとして定期的に招聘し、ご利用者の課題行動の改善やQOLの向上等について、助言を受けながら支援の在り方検討会を重ねてきました。そして年度末には報告会を行ってきましたが、6年度は3月6日に開催しました。取組事例のうち2事例を簡単に紹介したいと思います。

【事例1】「こだわり行動を考える」

A様は日常生活の中でのこだわり行動が多岐に渡り、他者の迷惑行為となり得る「夜間帯に特定の利用者の居室に入ってしまう」行動などに焦点を当て、支援に取り組みました。①行っても良い時間を保障する ②こだわり行動をA様の役割にする ③約束事を本人に説明後、掲示するということなどの取組みの結果、課題行動は減少しました。

【事例2】「表出性コミュニケーションの向上を目指して」

何ごとを受け身で意思の表出が乏しいB様に対し、コミュニケーションボードや選択ボードと写真カードを使用し、お菓子の選択や余暇選択の支援に取り組みました。多くの職員が関わりながら試行を繰り返すことで、徐々に写真カードを見て実物をイメージできるようになり、言葉でも要求や拒否の言葉のほか、情報提示などの言葉も出るようになりました。B様の成長ぶりには支援者も驚かされています。



アート活動の取組み・振り返り

当園では、障がいのある方々が、月・水・金曜日の午後にアート活動を行っています。ご利用者一人ひとりが心のおもむくままに表現した作品を創れるように心がけています。ご利用者のアート作品をフクシ×WEEKS 事業や地域イベントに提供したり、また当園の小径アートギャラリーを地域に開放しています。

R6年度はとりぎん文化会館でのいどりアート展では約380人、中電ふれあいホールでのいどりアート展では約60人と多数来場して頂きました。あいサポート・アートとっとり展では絵画、書道、造形で5作品が入選しています。本年度は鳥取県立美術館オープンもあり、障害者アートにも関心が寄せられ当園では日本海テレビ、中海テレビ、読売新聞など多くの取材を受けご利用者へのインタビューや日頃のアート活動を見て頂きました。作品作りに関わったご利用者の喜びややりがいに一層繋がったようです。今年度も新たに外部講師を招き、ご利用者の更なる個性的なアート作品を提供していきます。



7年度 鹿野第二かちみ園事業計画（抜粋）

- 1 支援付き意思決定の促進
 - ア 社会生活における場面（地域移行や施設外の日中サービス利用の意向などの確認・支援）
 - イ 日常生活における場面（様々な日常生活場面で意思決定の機会を提供）
 - ※その為、意思を推定する力を養うことに努める（カードや写真など様々なアイテムの活用、表情や感情からの読み取り、その人の生活史、性向、好き・嫌い、強み・弱み、病歴などの情報把握等に努める）
- 2 利用者支援の専門性の向上
 - ア 行動障がいのある方への専門的支援（構造化、応用行動分析、課題分析等の活用等）
 - イ 身体障がいやフレイル状態の方などへの専門的支援（理学療法士や外部の言語聴覚士によるアプローチ等）
 - ウ 精神障がい等のある方への専門的支援（医療との連携等）
- 3 楽しみのある活動の提供
 - ア 障がい者アート、音楽療法、カラオケ、スポーツレクリエーションなど活動班での活動
 - イ 運動会、納涼祭、日帰り旅行、個別外出、おやつづくりなど、主に自治会を中心としたご利用者主体の活動